中世から近世までの多久の歴史（主な出来事）

多久太郎宗直▶

時代区分	西暦	主なできごと
鎌倉時代	1191	多久太郎宗直が多久に下向 宗直、梶峰城を築いたと伝わる　前多久の始まり
室町時代	1497	大内義興との戦いに敗れた少弐政資は梶峰城の多久藤兵衛宗時を頼るも断られ、専称寺にて自害する
	1536	少弐資元、専称寺で自害する　少弐政資、資元父子の墓や核割れ梅が専称寺にあります
	1544	龍造寺氏、梶峰城の多久宗利を攻める
	1563	丹坂口の戦い、多久宗利、須古（現在の白石町）に落ちる
		龍造寺長信、梶峰城に残る
		小田鎮光、蓮池城から梶峰城に移る
	1570	龍造寺長信、小田氏の梶峰城を攻める
		長信、梶峰城に入城、多久の領主となる　後多久の始まり
		梶峰城の鬼門に聖光寺を創建
	1571	（筑薬筆の創始者）諸田賢順、長信に招かれ多久に住む
	1590	長信、家督を家久（後の多久安順）に譲る
	1592	龍造寺家久、文禄の役で朝鮮出兵
		（豊臣秀吉、多久を通ったと伝わる）
	1597	龍造寺家久、慶長の役から戻り、李参平を預かる　唐人古場窯跡などが市内にあります
	(1598)	（豊臣秀吉死去）
江戸時代	1605	家久、伏見で妻千鶴と、鍋島勝茂の結婚の世話役を勤める。後陽成天皇、千鶴の筆に「鳳凰」の名をつける
	1608	家久、姓を多久に改める
	1612	多久家久、名を安順に改める
	1614	安順、大坂冬の陣に多久茂富を参戦させる
	1615	安順、大坂夏の陣へ向かう
	1616	李参平（金ケ江三兵衛）、有田皿山に移るとされる
	1637	茂辰（安順の養子で家督を相続）、島原に2,300人を率いて参戦し、安順も230人の手回りを指揮し参戦する
	1657	茂辰出家し、茂矩に家督を譲る
	1669	鍋島光茂の三男熊法師（後の多久茂文）、佐賀城下向陽軒に生まれる
	1670	茂矩、熊法師（茂文）を養子にする
	1686	茂矩が隠居し、茂文が家督を継ぎ、多久に入部する
	1692	鍋島綱茂、弟の茂文に「学問所」の額を贈る
	1699	河浪自安宅に学問所を開設（12月）
	1700	京都の中村惕斎に依頼した孔子像が完成
	1701	孔子像を佐嘉より御屋形に運び、御屋形から河浪自安宅に遷座する
		茂文、（聖廟建設への想いを記した）文廟記を著す
	1705	茂文、多久聖廟建設に着手する（２月）
	1707	御厨夏園、聖廟天井の蟠龍を描き、褒美をもらう　蟠龍は釈菜のとき見ることができます
	1708	聖廟落成し、孔子像を遷座し釈菜を執行する（８月）　聖廟釈菜の始まり
	1718	独立した学舎（東原庠舎の前身）が建設される
	1812	東原庠舎の分校、上田町、笹原の両学舎を創立
	1837	十代領主茂澄、七代領主茂堯の娘林姫のため西ノ原大明神を創設する　林姫の悲恋の物語があります
	1859	志久学舎設立
明治時代	1869（明治2年）	「東原庠舎」を「多久郷学校」に名称変更。170年の歴史に幕をおろす

▲鳳凰の箏
◀多久初代領主多久安順

▲多久４代領主多久茂文
◀孔子像

▲聖廟内の蟠龍の天井絵

▲龍造寺長信

(多久市史第１巻、第２巻の年表から抜粋)

⑥西渓公園

多久家の家老屋敷跡を、多久出身の炭鉱王「高取伊好」が購入し、大正９年から13年にかけて整備した山水公園です。園内の築鶯亭や図書館（現存するのは書庫部分のみ）とともに当時の多久村に寄付しました。春は桜、秋は紅葉の名所で、多くの市民でにぎわいます。

⑦寒鶯亭
（国の登録有形文化財）

「寒鶯待春」…「冬の間、鶯は春に備えて一生懸命笹鳴きをし、春に美しい声を出す。多久の村人も人物として世に出るため、この公会堂で学んで欲しい」という高取氏の思いが込められた建物。会議や学習のほか休憩所等にも利用できます。
（電話予約 ☎0952-75-4827 都市計画課）

⑧先覚者資料館
⑨郷土資料館
（☎0952−75−3002）
⑩歴史民俗資料館

３つの資料館が隣接しており、多久の歴史や人物、昔の生活について知ることができます。入場料は無料です。

⑪西ノ原大明神
（☎0952−74−2638）

多久７代領主、茂堯の娘・林姫を祀った神社です。家臣・相浦善左衛門との恋愛にまつわる悲話があり、今では、安産祈願の神様として県内外から多くの人が訪れます。
（林姫の遺骨を納めた一字一石経一括資料は市の重要文化財）

⑫専称寺
（☎0952−75−2440）

807年に創建された浄土宗のお寺です。境内には市の重要文化財指定の少弐政資、資元父子の墓や樹齢600年の大つつじ（市の天然記念物）のほか、少弐政資ゆかりの核割れ梅などがあります。毎年７月13日には筑薬筆の創始者「諸田賢順を偲ぶ会」があります。

多久の風を感じる

ゆっつら〜と町ん中ば歩いてみらんですか？

❶多久聖廟
（国の史跡及び重要文化財）

「敬は一心の主宰、万事の根本にして、万世聖楽の基本たり」。多久４代領主多久茂文は、教育を振興し、敬の心を育むため、1708年に多久聖廟を建てました。その思いが「文廟記」に記されています。また、茂文の多久を四霊（麒麟・鳳凰・龍・亀）の住む理想郷にしたいという思いが、聖廟の彫刻や絵などに表れています。聖廟内には孔子や顔子、曽子、子思子、孟子の像が安置されており、年２回（４月18日、10月第４日曜日）孔子様と四配を祀る伝統行事「釈菜」が行われています。
（☎0952−75−5112　孔子の里）

❷東原庠舎
（☎0952−75−5112）

多久茂文が、多久を治めるためには教育が必要であるとして、諸藩にさきがけ開いた学問所（1699年）。漢学や和学、武道などを学ぶ場で、学ぶ意欲があれば武士に限らず学ぶことができました。幕末から明治にかけて日本や郷土のために尽くした人物を数多く輩出しました。現在の東原庠舎では、各種研修施設として日帰り又は宿泊利用ができます。

❸聖光寺
（☎0952−74−3318）

1570年、龍造寺長信が梶峰城入城に際し、鬼門の位置に建てた神仏混こうの寺院。東原庠舎の初代と２代目の教授である河浪自安・質斎父子の墓や世界最古の花といわれる二千年ハスの池などがあります。

❹多久八幡神社
（☎0952−75−3015）

1193年、多久太郎宗直が建てた神社で、建築様式や彫刻などは桃山期の特徴があり、神殿が県の重要文化財に指定されています。境内には三本杉の巨木があります（市の天然記念物）。

❺多久神社
（☎0952−75−3015）

1844年、多久11代領主多久茂族が先祖を祭祀するために建てた神社です。
拝殿には「松浦捕鯨図」の絵馬が、境内には中林梧竹筆の多久茂族碑の碑文や草場船山の詩を彫った手洗い盤などがあります。